2023.11.1wed～

チェックイン!後滑走して **リフト券が当たる!!**

県内全スキー場共通

スキー場1日券 × 500名様

※有効期間:当選者にクーポン配信された日～2024年3月31日

対象者 ※エントリーが2万人に達したら終了

長野県内のスキー場にて「yukiyama」アプリでチェックインして2.5km以上滑走されてエントリーが完了された方。

※2.5km以上滑走が条件となります。スキー場の駐車場に来ただけではカウントされません。

当選通知：当選された方にはアプリ「マイページ」内の「プレチケ」⇒「クーポン一覧」ページにデジタルギフト券当選通知が届きます。

※2万エントリーを達成し、キャンペーン期間終了後1週間程度で当選者にのみ通知いたします。

長野県の特産品を贈呈（応募の中から各賞を決定）詳しくはWEBで

最優秀賞（1作品）：10,000円分相当

優秀賞（5作品）：5,000円分相当・特別賞（8作品）：3,000円分相当

ものづくり大賞NAGANO 2023

hide kasuga 1896 グランプリ受賞!!

長野県内の「小さくてもキラリと光る技術」を持つ企業、「最先端技術を支える地道なものづくり」を続ける企業を表彰する「ものづくり大賞NAGANO 2023」。キッセイコムテック、日本装置開発、hide kasuga 1896が大賞に選出され、このうちhide kasuga 1896の地域に密着したサーキュラーエコノミーに資する取組などが評価されグランプリとなりました。

hide k 1896 | TRANSWOOD

長野県産スギ間伐材の木粉と廃食用油由来の樹脂を50%ずつ配合させた自然由来の循環型複合材「hide k 1896 | TRANSWOOD（トランスウッド）」を開発。この新素材を用い、世界的建築家の隈研吾氏がデザインを担当した、形を変えて循環する環境に優しいテーブルウェアが誕生。東京表参道のhide k 1896 旗艦店などで実物をご覧いただけます。

さまざまな角度から信州の深淵を描く

Breath of NAGANOシリーズ 新作動画公開 しあわせ信州 youtube

"MATSURI"
Connecting Souls（祭 ~心を繋ぐ~）

Essence of NAGANO
小林圭からのメッセージ

長野県産品コラム

vol.9 Carp 佐久鯉

大晦日の御馳走といえば、年取り魚。東日本は鮭、西日本は鰤というのが定番で、フォッサマグナがその境界と言われています。そのため信州の年取り魚は、長野などの北信では鮭、松本や飯田など中南信では鰤が主流。では、佐久や上田など東信の年取り魚は？実は多くの家庭で「鯉」が食されています。

鯉は古来より薬用魚と呼ばれるほど栄養豊富な食材。料理においても最高級のもので、縁起の良いものとされてきました。中でも佐久鯉の養殖は200年以上の歴史をもち、郷土の伝統食として、またハレの日の御馳走として親しまれています。

その美味しさの秘密は、佐久地域独特の「気候と水」。八ヶ岳・秩父の広大な自然林を水源とする千曲川の清らかで豊富な水系と四季と昼夜の寒暖差。冷たい流水で飼育される鯉は、成長が遅く飼育日数がかかるため、臭みもなく、身が引き締まり、脂肪が適度にのった美味しい肉質となるのです。

鯉を使った伝統料理といえば、鯉こくやうま煮、洗いなどが有名ですが、地元では熟成させて旨味を増したお造りや唐揚げなど、さまざまな味わいを楽しむことができます。

＼こちらもチェック!／

おいしい信州ふーどネット

長野県のヒト・コト・モノと あなたを"つなぐ"情報マガジン
コトづく
2023.12 vol.96 令和5年11月15日発行
TAKE FREE
発行：長野県
しあわせ信州

コトづく

長野県のヒト・コト・モノと
あなたを"つなぐ"情報マガジン

vol. 96 2023.12 令和5年11月15日発行
TAKE FREE

しあわせ信州

特集

信州の冬 伝統の風物詩

その1 冬至、太陽と命の復活を祈る 遠山の霜月祭

その2 上田の新春を飾る風物詩 八日堂縁日と蘇民将来

冬至、太陽と命の復活を祈る 遠山の霜月祭

國學院大學兼任講師　南信州民俗芸能
継承推進協議会アドバイザー
櫻井 弘人さん

「民俗芸能の宝庫」とされる南信州では、山里の暮らしの中で生まれた貴重な伝統や風習が多く継承されています。そのひとつが、県南端の秘境・遠山郷に伝わる「遠山郷霜月祭」。国の重要無形民俗文化財に指定される湯立神楽（大釜で湯を沸かし、無病息災などを願う神事）の祭りです。素手で湯を切る荒行は遠山霜月祭が全国唯一といわれます。現在は12月（旧暦霜月）前半に8ヶ所の神社で日を変えて行われ、地域ごとに特色も異なります。日中の時間が最も短くなり万物の生命力が弱まる12月の冬至の頃に全国の神々を招いて湯でもてなし、生命の復活を祈るとともに、百姓一揆で滅ぼされたと言い伝えられる領主・遠山氏の怨霊を鎮める御霊信仰が色濃く表れるところに大きな独自性があります。

起源は定かではありませんが、鶴岡八幡宮が隆盛を極めていた鎌倉時代、遠山郷が信州で唯一の同宮の神領地だった歴史から、荘園儀礼として持ち込まれた可能性があります。現在の祭りの原形ができたのは江戸時代初期と考えられます。

「自然環境が厳しく閉鎖的な山間地の遠山郷では、神々の存在を身近に感じ、平穏を願う暮らしが人々のベースにあります。江戸時代には飢饉や疫病の流行、天災などがたびたび起こりましたが、人々はそれを遠山氏の祟りだと考え、より強い力を祭りに込めて乗り越えようとしてきました。祭りの変化とその時代背景をしっかり追うことができる点で、全国的にも非常に特異な祭りです」

こう話すのは、当地出身で南信州の民俗芸能研究の第一人者でもある櫻井弘人さんです。当初は地域の八幡神社で行われていましたが、江戸時代中期以降は遠山郷の各集落の神社にも広がるように。江戸末期から明治時代にかけては村内の神々や高神の面が続々と奉納されるようになり、神々の加護を求める祭りへと変化していったのです。終戦後は人々の楽しみの祭りとしての要素も加わり、今では少子高齢化や人口減少という悩みを抱える地域にとってアイデンティティを育む祭りとして大切に伝承されています。

「遠山郷の人々にとって、この祭りは1年を無事に過ごした充実感と新年を迎える節目を感じるものでもあります。単なる物珍しい祭りではなく、祭りの現在の形から昔の遠山郷の暮らしを思い、祭りの中にある奥深さを感じ、日本の古来の信仰が感じられる学びの場として南信州を訪れてもらえたらうれしいですね」

櫻井さんの言葉には、地域の伝統を支える矜持と使命も感じられました。

遠山の霜月祭

飯田市上村・南信濃　https://www.city.iida.lg.jp/site/bunkazai/shimotsukimatsuri.html
☎0265-53-3755（飯田市教育委員会事務局 文化財保護活用課 文化財保護係）
☎0260-34-1071（遠山郷観光協会）

1 まずは全国の神々を迎える厳かな「神寄せ」を行い、夜を徹して湯立を丁重にくり返した後、本来なら夜明けの時刻に、遠山氏の御霊面や集落内の神々の面が登場する。2 4 山と渓谷に囲まれた遠山郷。霜月祭は飯田市上村・南信濃の各神社で湯立神楽が奉納される。3 社殿の中央に設えた釜には聖なる水と火が融合した湯が沸き立つ。その煮えたぎる熱湯を、水の王などの呪術面が素手で跳ね飛ばす所作は祭りのクライマックス。神々に捧げた湯を浴びて身を清め、1年の健康を願う。呪文を唱え、印を結び九字（くじ）「を切るなど神仏混淆の形も残す。5 最近では地元の小・中学校で舞を習った子どもたちが積極的に祭りに参加。「地域から祭りがなくなると、活力が一気に衰えてしまう。祭りがあることが地域が健全である証でもある」と櫻井さん。

上田の新春を飾る風物詩 八日堂縁日と蘇民将来

信濃国分寺住職　塩入 法道さん（左）
信濃国分寺復興会参与
八日堂縁日対策委員会副会長　金井 昇さん（右）

奈良時代の天平13（741）年に建立された上田市の信濃国分寺。長い歴史の中で地域の中心的存在として民衆に信仰され、地元では「八日堂」とよばれ親しまれています。ここで毎年、1月7・8日に開かれる「八日堂縁日」には県内外から多くの参拝者が訪れます。その際に頒布されるのが、厄除けや疫病退散、子孫繁栄などを願う護符「蘇民将来符」。寺で用意するものと、「蘇民講」とよばれる地域の人々が作る七福神の絵柄入りの「絵蘇民」の2種類があり、絵蘇民は8日の朝8時からの頒布に限られるとあって、多くの人が求めてにぎわいます。

この蘇民将来符は、日本各地の寺社で紙札や木のお守りなどの形で伝わりますが、信濃国分寺のものは六角形のこけし型と非常に特徴的。古文書によると室町時代にはすでに頒布されており、江戸時代初期の『八日堂縁日図』からは現在のような六角形で8日朝から販売され、盛況だったことがわかります。

「信濃国分寺は戦国時代に焼失し史料がないため、蘇民将来符の形状の変遷はわかりませんが、江戸時代になって世の中が落ち着き、農民も蘇民将来符作りに手をかける余裕が出て、凝った立体型に工夫したと考えられます」こう話すのは、塩入法道住職です。江戸時代からすでに長野県北部の飯山市や北群馬など遠方からも訪れていたとか。

「父から聞いた話では、焼失した信濃国分寺を江戸時代に再建した際、協力した集落の農民が絵蘇民の頒布を許可されたのが現在の蘇民講と絵蘇民のルーツ」と語るのは、88歳を迎える蘇民講員の一人でもある金井昇さんです。蘇民講では、江戸時代から代々、家ごとに絵を描く伝統を継承し、金井さんも父から受け継いだ技で「蘇民将来符」の制作に励んでいます。かつての様子が記された古文献には35軒の講員の名前が見えますが、現在も作り続けているのは11軒のみ。後継者不足が課題にもなりつつある中、素材の原木であるドロヤナギの木の植木をしたり、寺で用意する蘇民将来符は檀信徒も“準”蘇民講として制作を手伝ってもらうなど、門戸を少しずつ広げています。

「地元では正月に蘇民将来符を求めないと1年が始まった気がしないと言う人も少なくありません。最近ではメディアでも取り上げられ、首都圏から買いに来る人もいます。その気持ちを受け止めるためにも、伝統を守りつつ工夫して頒布を継続していきたいですね」（塩入住職）

地域内には江戸時代からの蘇民将来符を大切に集め続ける家庭もあるそう。六角形の愛らしい形の護符は、地域の人々の心の拠り所でもあります。

信濃国分寺

上田市国分1049　https://shinano-kokubunji.or.jp/youkadou.html
☎0268-24-1388

6 天平13（741）年に建立された信濃国分寺。本堂（薬師堂）や国重要文化財指定の三重塔などがあり、本堂は地元では「八日堂」とよばれ親しまれている。7 新年の初市として興った、八日堂縁日は「上田市八日堂の蘇民将来符頒布習俗」として国選択無形民俗文化財に選定。初詣として訪れる人も多い。8 信濃国分寺資料館に収められている『八日堂縁日図』からは江戸時代初期に蘇民将来符や生活用品が販売されている様子がわかる。9 毎年、八日堂縁日に合わせ、信濃国分寺資料館では江戸時代から残る地域の蘇民将来符や、現存する11軒の蘇民講の絵蘇民を展示。10 絵蘇民の本数は数に限りがあり、現在は1軒あたり大10本、中23本、小30本、合計63本と定められている。11 蘇民将来符のドロヤナギの木は白くて柔らかく加工しやすい材。主に手作業で六角柱に削り、朱と墨で文字や文様が書き込まれた後、縁日前に本堂でご祈祷をしたものが頒布される。